



ゴールデンウィークも終わり、浦富海岸でもだんだん魚が多く見られるようになりました。この時期の海はクラゲなどをたくさん見かけるようになります。今回は、水族館でもなかなか見られない、不思議な浮遊生物を紹介したいと思います。

お化けウミウシ ~ヤマトメリベ~

2018年6月7日と、2020年5月31日に「ヤマトメリベ」という全長20cmほどの大きなウミウシが持ち込まれました（写真1）。

多くのウミウシはカラフルな体色があり、全長は数センチほどで、頭に1対の触角、体の後方近くに花のようなエラしよっかくがあります。ヤマトメリベは全体的に半透明の薄いピンク色で、頭が「頭巾」と呼ばれる大きな袋状の形をしており、1対の触角は小さく、体の後方にエラは見えません。体の背中側には背側突起はいそくとつきと呼ばれる、取れやすい突起があります（写真2）。触ってみると軟らかく、スイカに似た清涼感のある匂いがします。

ウミウシ類は種によって餌生物が異なり、特定の種類のカイメン（海底に付着するスポンジ状の生物）やヒドロ虫（小さなイソギンチャクのような生物）などを食べます。ヤマトメリベは、広がると体の半分を占める大きな頭巾で、海底にいる小動物を丸飲みにします。

2020年に搬入されたヤマトメリベを飼育・展示しましたが、多くのウミウシ類の餌を入手することが困難で長期飼育が難しいため、当初、私は1ヶ月ぐらしか生きないと思っていました。しかし、サビキ釣り用の冷凍アミ（小さなエビのような甲殻類）を与えていたところ、思

いのほかよく食べ、何度も卵を産み、最終的に11月26日まで生きました。卵は残念ながら孵化することはなかったです。

ヤマトメリベは持ち込まれた際は、全長（広げた頭巾の先端から尾の後端まで）が約20cmでしたが、みるみるうちに大きくなり、3か月後ぐらいには約60cm（頭巾を広げた際、90cm幅の水槽の3分の2を占めていた）にもなっていました。これは日本のウミウシ類の中でも最大級の大きさで、頭巾を広げると人の頭を覆うぐらい大きく、見ごたえがあり、わざわざこれを見に来られるお客さんもいました。



写真1. 搬入直後のヤマトメリベ（2020年6月2日）
砂地の上で静止し、写真右にある頭を後ろにしている

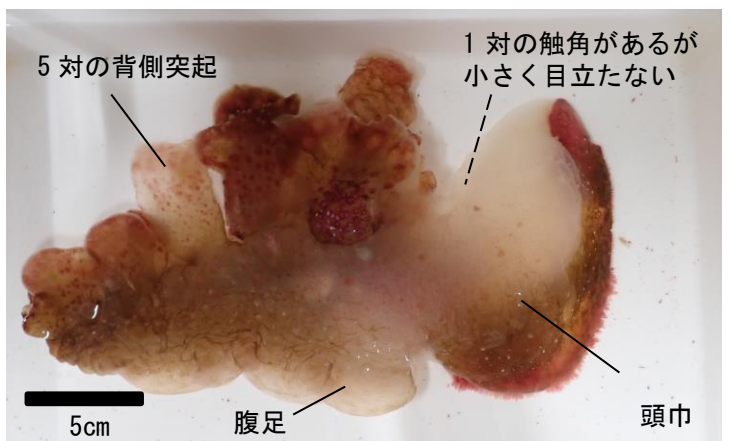


写真2. ヤマトメリベの形態

写真1の個体が11月26日に死亡した直後に撮影。死亡に至るまでに徐々に体が縮み、写真のように20cmほどになった。

ヤマトメリベの生態

ヤマトメリベは極めて大型のウミウシで目立つのにも拘わらず、その海で目撃されるのは年に1回あるかないかです。文献やSNSなどで調べてみると、記録は国内周辺にのみに限られており、沖縄本島から関東沿岸、日本海側では青森までで目撃・採捕されているようです。

筆者は浦富海岸沿岸の海底に潜って生物の調査をしますが、海底でヤマトメリベを見かけることはありません。長年、そこでダイビングされているインストラクターの方に尋ねても、見かけることはないそうです。調べてみると、ヤマトメリベの目撃例の多くは、海中を漂っている状態での発見です(写真3)。自然館に持ち込まれた2例もそうでした。海底で採捕された例は、静岡県沼津沖の水深約27mから、島根県浜田沖の水深約80mから、それぞれ1例として知られています。

漂っている時期もある程度決まっているようで、調べてみると、4～7月に日本各地で目撃・採捕例が集中し、浦富海岸でもその範囲内ですが、それ以外の時期でも散発的に見つかっているようです。

これらのことから、ヤマトメリベは普段はダイビングなどで観察できない水深で生息しており、移動のため(?)に海中を漂う際に、一部のヤマトメリベが浅い水深にまで来てしまい、目撃されるものと思われます。

体が小さい時期の生態や、浮遊生活をするタイミングや条件、生活史をどのように循環させていくのか、謎だらけです。今回紹介したヤマトメリベですが、この時期に海を漂っているのも、ピンク色の大きなクラゲのような生物がいましたら、是非当館に持ってきてください！ 展示したいと思います！

ちなみに浦富海岸では、ヤマトメリベに近縁なメリベウミウシの仲間が2種類確認されています(写真4)。両種とも全長が15cm以下で、ヤマトメリベほど大きくならず、黄土色をしています。この2種は春先から夏にかけて、浅い海底にいますので、探してみてください。

参考文献：今原幸光(2001)「ヤマトメリベの飼育下の行動観察とこれまでの発見記録2」, 南紀生物, 43(2): 132-136.

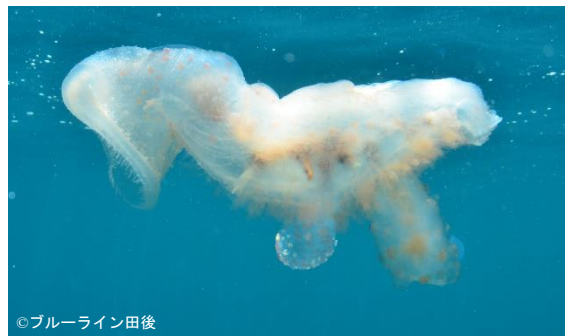


写真3. 海中を漂うヤマトメリベ (2018年6月7日)
この個体は、搬入後に標本として保管された



写真4. 浦富海岸の海底に生息するヒメメリベ
ヤマトメリベと比べて、背側突起や頭巾が小さい

自然館のうごき

コロナは未だ収束せず、当館職員が交代で保健所へ派遣され、業務を行っております。浦富海岸の海には多くの魚の稚魚でにぎわい、その展示も行ってます。

ゴールデンウィーク(GW)は県内外のお客様で大変賑わい、約1670名が来館しました。GW企画で、「磯の生き物タッチング」、「ペーパークラフトを作ろう!」、「ジオパークの星空観望会(春)」などを開催し、合計で約430名に楽しんでいただきました(写真5)。

(小矢野：旧姓 太田)



写真5. 磯の生き物タッチングの様子

イベント

- 5/22(日) 9:00~12:00 山陰海岸ジオハイキング ~羽尾岬植物観察コース~ (申込受付中)
- 6/5(日) 9:30~13:00 屋間の金星を見よう! (申し込み不要)
- 6/12(日) 9:00~15:00 地面の下を調べてみよう! (5/29から受付開始)



詳細は
こちら!